



文学賞いろいろ

日に日に寒さが増していますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。図書館に来られる方の中にもマスクをつけている方や、咳をされている方が増えてきているように感じます。インフルエンザも流行っていると聞きます、皆様も体調管理にはお気を付けください。

さて、今回は先日芥川賞・直木賞が発表されましたのでそれに関連して数多くある文学賞からいくつかの賞と昨年の受賞作品を紹介します。

❖第160回芥川賞・直木賞

16日に選考会が行われ、芥川賞・直木賞の受賞作が発表されました。今回の受賞作は、芥川賞は上田岳弘氏の『ニムロッド』と町屋良平氏の『1R(ラウンド)1分34秒』の2作品が、直木賞は真藤順丈氏の『宝島』に決定しました。『ニムロッド』は仮想通貨をめぐる人間模様のお話、『1R1分34秒』はプロボクサーが変わり者のトレーナーとの出会いで変わっていく心境を描くお話です。また、『宝島』はアメリカ軍統治下の沖縄を舞台にした少年少女の青春と革命の物語です。芥川賞の2作品は発売され次第、順次購入予定です。『宝島』はただいま準備中です。しばらくお待ちください。

❖大衆文学

「松本清張賞」未発表の長編エンターテインメント小説に贈られる賞。受賞作は『天地に燦(さん)たり』(川越宗一)。豊臣秀吉の朝鮮出兵により侵略の風が吹き荒れる東アジアを三人の視点で綴る。

「柴田錬三郎賞」前年の7月1日から当年の6月30日までに刊行された小説が対象。受賞作は『雪の階(きざはし)』(奥泉光)。戦前昭和を舞台に親友の死の真相を追うミステリーロマン。

❖純文学

「野間文芸賞」小説・評論に贈られる賞。受賞作は『草薙の剣』(橋本治)。大正から現代へ6人の主人公でたどる百年の軌跡。また、野間文芸賞は他に新人賞と児童文芸賞があります。

「谷崎潤一郎賞」対象は小説・戯曲で受賞作は『焰』(星野智幸)。焰を囲んでいる最後の生き残りの人々が順に物語を話す形でまとめられた短編集。語られる世界はどれも奇妙なものばかり。

❁ そのほか

他にも「本屋大賞」や「メフィスト賞」など海外の賞も含めるとたくさんありますが、その中から気になったものを紹介します。それは、「日本タイトルだけ大賞」です。その名の通り日本で出版されている書籍の中から、内容の優劣を問わず、タイトルのみコピー、美しさ、面白さが際立つ書籍に贈られる賞なのだそうです。昨年12月9日に選考会が行われデレク・B・ミラーの『砂漠の空から冷凍チキン』が大賞に選ばれました。

時には文学賞をキーワードに本を選んでみるのも楽しいかもしれません。

(栗盛・藤)